

	豆蔵山	97
み	南垣内	75
	南八代	111
	南八代町	8
	南八代村	75
	宮跡 (みやあと)	19
	ミノ峠	42
む		
め		
も		
や	八代 (全国にある)	26
	八代 (消えた)	27
	八代 (名の起こり)	66
	八代銀座	208
	八代村	117
	八代 (新道)	17
	八代 (富士才町)	17
	八代 (御茶屋町)	17
	八代 (東ノ町)	17
	八代東光寺町	8
	八代宮前町	8
	八代緑ヶ丘町	8
	八代本町一、二丁目	8
	八代山	30
	柳の清水	68
	宅田 (やけだ)	19
	山田	19
	山陰 (やまかげ)	19
ゆ		
よ	横須賀	64
ら		
り		
る		
れ		
ろ	六ノ坪	19
わ	別れめの岡	68・69

## 八代関係地名さくいん

あ	庵之垣内……………	75	し	芝崎……………	134
い	妹背川……………	69		芝崎山……………	28・97
	いもせ山……………	68		地藏垣内……………	75
	因達里……………	53		城北村……………	148
	因達神山……………	53	す		
	石見屋敷 きたかいち……………	71	せ	船場川……………	20
う	梅ヶ谷……………	73		善養寺垣内……………	75
	梅ヶ谷町……………	8	そ		
	梅ヶ谷山……………	97	た	竹林……………	133
え	榎(えのき)……………	135	ち	千代山……………	64
お	岡……………	68	つ		
	大川……………	146	て	出口……………	19
	大野川 大野谷川……………	97	と	東光寺垣内……………	75
	大谷……………	133		東光寺山……………	31
	大谷山……………	97	な	中八代……………	75・19
	男山……………	19		長彦山……………	68・69
	御茶屋……………	77	に	西八代町……………	8
	御茶屋垣内……………	75		西城戸(きど)……………	68・69
か	垣根(かきね)……………	135	ぬ		
	萱尾江(かやおえ)……………	68	ね		
	萱原(かやはら)……………	70	の		
	萱生(かやお)……………	69	は	挟河 狭河(はさこ)……………	75
	金山……………	39	ひ	東垣内……………	75
	かやが谷山……………	97		広原垣内……………	75
き	北八代……………	75		姫山……………	69
	北八代村……………	96	ふ	富士才(ふじさい)……………	19
	北八代一、二丁目……………	8		深田……………	19
く				深ヶ(ふけ)……………	19
け				二また川……………	69
こ	御所の清水……………	166	へ		
	コシの清水……………	166	ほ	ほそ谷山……………	97
	川間(こばさま)町……………	70	ま	前替(まえかえ)……………	19
さ	鷺の清水……………	69		町裏……………	19
	鷺山……………	69		松本……………	19

## 関連事項一覧表

<p>八代というところ 地番と住居表示 …………… 17</p> <p>古代 播磨 …………… 53 筋磨 …………… 53</p> <p>中世 天蔭語録 …………… 61 村の始まり …………… 62 八代の小さな城 …………… 64 英城日記 …………… 65 置塩様 …………… 67 井出村 …………… 67 惣社集日記 …………… 67 八代六郎左衛門道慶 …………… 72</p> <p>江戸時代 姫路城主の移り変わり …………… 77 寛延二年の百姓一揆の状況 …………… 81 打ちこわしにあった家数 …………… 82 きびしい検挙 …………… 84 寺子屋 …………… 92 中嶋組 …………… 94 固寧倉が残っている所 …………… 109 姫路領の村数 …………… 110</p> <p>明治時代 鳥羽伏見の戦い …………… 113 トコトンヤレ節 …………… 113 池田氏（岡山藩） …………… 114 第八小区とは …………… 116 戸長の任務 …………… 118 八代周辺の戸長名 …………… 118 戸長役場の印 …………… 118 赤鹿佐太郎 …………… 124 兵庫県権令 …………… 125 洋式工場の初め …………… 125 金山銅坑 …………… 158</p>	<p>神戸又新日報 …………… 128 神戸嘉平次 …………… 129 濱本八治郎 …………… 129 三宅純一 …………… 129 第十師団 …………… 129 播磨紡績 …………… 130 白河稲荷神社 …………… 130 糧秣会社 …………… 138 氷室山植林契約書 …………… 143 出征兵士を送る歌 …………… 144 正午のドン …………… 146 最初の乗合自動車 …………… 146 広峰山 …………… 148 城北小学校 …………… 152 姫路師範学校 …………… 152</p> <p>大正時代 電灯の始まり …………… 161 飛行機はじめて飛ぶ …………… 163 大正天皇御大葬御歌 …………… 169</p> <p>昭和時代 八代の電話台数 …………… 179 姫路節 …………… 179 凱旋の歌（昭和9） …………… 182 「隣組」の歌 …………… 186 愛国婦人会 …………… 187 国防婦人会 …………… 187 紀元二千六百年 …………… 189 支那事変報国債券 …………… 189 国民服 …………… 191 興亜奉公日 …………… 195 本土空襲のはじめ …………… 196 B29 …………… 196 播但線の機銃掃射 …………… 197 川西航空機姫路製作所 …………… 197 警報表示板 …………… 200 国民学校 …………… 207 琴陵中学校 …………… 207</p>
--	---

上巻の編集を終えて

「八代も郷土誌をつくりましょいな」と役員で古老の坪田光次さんの発言があつてから十余年がたちました。この発言の後にも小出勝さんなどから「あれ、どうなつとるんやろノ皆よつてこしらえましょいな」とのお勧め。だが史跡や文化財がなく、古文書も少なくなつてゐる八代では、どうしたらよいか。そのうち姫路市教育委員会の和泉課長さんから「公民館活動の助成金（よせいきん）が出るから、なにか考えてみたら」とのアドバイスもありました。

そこで、八代地区の各町の自治会長さんの推せんによる編集委員会ができました。八代に関するものは、どんな小さな記事でも、思い出話でも、できるだけ多くの人から聞き集め、草の匂（くさのにおい）い、人の臭（にお）いがする本をめざして出発しました。八年まえのことです。

早くから資料を提供くださったかたには、たいへんお待たせしましたこと、おわびするとともに厚くお礼申しあげます。

寄せられた資料のうち、限られた狭い範囲のものは、中巻の各町の地誌にいれることにしています。下巻には上巻、中巻にはいらなかつたもの、珍しいものがあれば盛り込む計画ですからしどしどお寄せください。

この本の出版については赤鹿建設、山野印刷から多大のご協力をえましたこと、お礼申しあげます。

平成六年六月一日

編集委員長 坪田恒雄 八代本町二丁目

副委員長 飯塚重三 南八代町

副委員長 矢内 澄 八代富士才町

編集委員 東塚 弘 八代新道

橋本長治 八代富士才町 平二、九 死去

西納鷹雄 "

北垣哲男 " 平六、一より

小出 勝 八代御茶屋町 昭六三、五 死去

黒田正夫 "

糸田秀雄 "

安倍房夫 八代東の町

奥山武雄 北八代一、二丁目

田島 満 " 平六、一より

藤本芳雄 八代東光寺町

北山直一 八代本町二丁目

松岡秀樹 八代本町一丁目

中村和男 八代緑ヶ丘町

安達鉄也 八代宮前町

渡辺弥市 西八代町 平三、九 死去

岡本文彦 "

松尾義雄 "

黒田忠夫 南八代町

ふるさと八代（上巻）

発行日 平成六年（一九九四）七月一日

編集 ふるさと八代編集委員会

発行 八代地区推進協議会

印刷所 山野印刷株式会社